

■ 編 集 委 員

池淵 研二* (委員長)

赤塚 俊隆* 伊崎 誠一* 小山 勇* 仁科 正実 町田 早苗 松下 祥* 御手洗哲也*
渡辺 修一* Chad L Godfrey (*Associate Editor 兼任, 五十音順)

■ Associate Editor

池田 正明 太田 敏男 永井 正規 萩原 弘一 (五十音順)

■ 編 集 後 記

今号を発刊するに当たり、久し振りに苦労したことがありました。「臨床研究に関する倫理指針」告示以降で施行以前の時期に、日常臨床の場で行われているように通常書式を用いて説明し同意を得てから研究していたものの成果を原著として投稿されたケースです。倫理指針が出た以降であれば、臨床研究として体裁を整え、施設のアイアールビーあるいは倫理審査会に申請し承認を得てから実施すべきであったと考えますが、まだまだ指針が研究者の共通理解には浸透していなかった時期であった場合、これを指針違反として掲載可とすべきか、一定期間は条件を付けて掲載可とすべきか、編集委員会で何度か議論することになりました。「本研究は臨床研究に関する倫理指針が示された以降に行われているが、どの範囲を臨床研究として倫理委員会に申請しなくてはいけないのか、埼玉医科大学の中で周知徹底できていなかったため、本研究は倫理審査を受けていないが、被験者の同意のもとに行われた研究であることを編集委員会で確認したため、論文の掲載を認めることになった」という形で採用することとしました。

まだここ1, 2年は同様の論文が投稿される可能性がありそうですが、「大学倫理委員会や病院アイアールビーなど施設の倫理審査会に申請し承認を得ていること」を投稿規程に追加し、投稿条件としました。埼玉医科大学雑誌の原著論文が学位審査の対象論文として申請される場合もあり、大学院委員会の「研究倫理面における規範の遵守」と横並びに揃えておきたいと考えました。

さて、先日久しぶりに大雪が降り、都内の交通が一部麻痺しました。その後の天気予報はやや過剰予報気味になり、小雪でも大雪警報が出された感じでしたが、心配性の人間の対応とはこのようなもの、と理解しています。東上線の電車内の吊り込み広告には長瀬の宝登山の蠟梅が紹介され、大学構内ではオオイヌフグリ、ホトケノザ、スイセンが花をつけ、梅の花芽に白やピンクの色が覗ける季節になってきました。我が家では庭のフキノトウとアシタバの天ぷらをつい先日味わいました。もうすぐ春、楽しみに感じています。

(池淵 研二)

埼玉医科大学雑誌

<http://www.saitama-med.ac.jp/jsms/>

第 39 巻 第 2 号

編集責任者 池淵 研二

平成 25 年 3 月 15 日 印刷

平成 25 年 3 月 30 日 発行

発 行 所 埼玉医科大学 医学会

350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38

電話 049(276)2102/2030 (直通) FAX 049(276)1964 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp

郵便振替 00540-6-19727

制 作 株式会社アテネデザイン

東京都港区三田 1-11-19 小宮ビル 2 階 電話 03(3456)5741 (代) <http://www.atene.co.jp>